

(様式第6号 別紙)

長崎県福祉サービス第三評価結果報告

①第三者評価機関名

有限会社医療福祉評価センター

②事業者情報

名称：県央北	種別：共同生活援助
代表者氏名：田島光浩	定員（利用人数）：27名
所在地：長崎県諫早市八天町15-13 101号 TEL0957-22-2203	

\*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

③施設・事業所の特徴的な取組

【豊かな暮らしを地域の中で支援する取り組み】

法人としても事業所としても利用者がノーマルな生活を営むことができるように、必要な支援体制を整えている。これは法人として中長期計画に謳っている、サービスの質を支える取り組みのうち、「地域での生活を支える仕組み」を具現化しているものと言える。

【自立を目指す利用者への支援】

特に県央北は自立を希望する利用者が多く、その支援体制確立に向けてプログラムを作成し、モデル事業を展開している。今後より一層支援体制の精度を高め、サービス終了後も地域の中で利用者を支援する仕組みを作っている。

【職員間での密な情報共有の徹底】

事業所では朝と夕方と2回職員ミーティングを開催している。利用者の支援内容によってサービス提供時間が異なるし、職員も入れ替わるため、小さなことでも情報を共有することで、利用者に安心してもらえるようなサービスを提供するための取組みを日々繰り返している。

【意見を出しやすい環境】

資料を確認していると、数多く職員からの申し送りや報告書を目にした。特に世話人は利用者支援の最前線にいて多くの情報を把握している。この情報を基に様々な提案をしてくれる。これは事業所の風通しが良いからでもあるし、そのような風土づくりに事業所全体が向いている証である。

④第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 28 年 9 月 8 日 (契約日) ~ 平成 29 年 3 月 1 日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	0 回

⑤総評

<p>◇特に評価の高い点</p> <p><b>【組織的に機能している取組み】</b> 法人として統制された情報の共有をはじめ、統制された仕組み作りが確立している。法人の理念を実践するために、中長期計画と単年度事業計画が充実しており、職員も計画策定の過程で参画する仕組みをとっている。その他、人事交流や教育研修体系も充実しており、より専門性の高い支援体制の構築を日々追及している。</p> <p><b>【利用者の希望する暮らしへのサポート体制の充実】</b> 事業所の特徴としてホームから自立したいと希望する利用者が比較的多いとのことであった。事業所としてホームからの自立に向けた支援と同時に、自立後の利用者支援にも主眼を置き、すでにモデル事業に着手している。この点も理念に向けた取組みの一つと言える。</p> <p><b>【密な情報の共有で統一した支援の実践】</b> 利用者の支援内容に伴って、支援を提供する時間で職員の勤務時間にシフト制をしている。この点は24時間365日を支援するという点で理に合うが、情報の共有が課題となる。利用者の状況は日々刻々と変化をするため、この課題を克服するために、原則として、朝と夕方と2回情報の共有を図る仕組みを作っている。利用者の小さな変化に気づき、何事も早めに対処できるように情報の共有に努めている。</p> <p><b>【事故発生防止への効果的な取組み】</b> 利用者と実務的に一番関わりの多い世話人から、利用者支援の在り方について数多く提案等がなされていることを書面から確認できた。その中でヒヤリハットに該当するような書面を多く目にする事ができた。これは事故が発生する前の予防線であり、この資料の多さこそが事故発生防止の1つとなり得る。このような提案や書面が多く出てくる要因として、職員が普段から意見を言いやすい環境作りに上位者が努めているからである。</p>
---

◇改善を求められる点

【地域の中で利用者が生活する上での更なる工夫】

法人として事業所として、利用者が望む生活を支援するために、地域住民との連携、地域住民の理解は不可欠と考えられる。より地域密着して利用者支援を推進していくという観点から、地域住民への事業の周知は不可欠と考えられる。地域住民と顔の見える関係を構築するための更なる活動を期待したい。

【利用者にわかりやすい書面の工夫】

利用者へ配布するパンフレット等一通りの資料は整備されている。但し、利用者の特性を考慮すると、見やすい工夫、わかりやすい表現方法が必要と考えられる。文章ばかりではなく、画像を交える等シンプルかつ的確な表現方法の資料作りを期待したい。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受けさせて頂き、法人や事業所で組織的に取り組んでいることを評価して頂いたことで、今まで法人や事業所一丸となって力を入れていたことについては、今後も自信を持って取り組んでいきたいと思いました。より質の高い事業所を目指すためにも、地域の中で利用者が生活する上での更なる工夫、利用者にわかりやすい書面の工夫等について、事業所職員とも意見交換をしながら事業計画にも盛り込み、取り組んでいきたいと考えています。事業所の中だけで確認したり議論したりしているだけでは見えなかった部分が、今回、客観的な視点で見頂けたことで、利用者支援にとって大切なことを気付かせて頂くことができました。特に、地域住民と顔の見える関係を構築することや、利用者に分かりやすい書面を工夫する等は、事業所の中だけや職員間だけで完結せず、利用者、家族、地域等の外に向けてより発信をしていくことが大切であるということ気付かせて頂きました。ありがとうございました。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)